

**(6) 民間スポーツクラブにおける  
障害者の参加状況に関する調査**

---

## 1. 調査概要

---

### 1. 1 調査目的

民間スポーツクラブにおける障害者の受入れ状況を把握することによって、地域における健常者と障害者が一体となったスポーツ・レクリエーション活動の充実方策に資する事例の把握を行う。

### 1. 2 調査対象

民間スポーツクラブ統轄団体である以下の団体を対象とした。

- ・一般社団法人日本フィットネス産業協会
- ・一般社団法人日本スイミングクラブ協会
- ・公益社団法人日本テニス事業協会

また、統轄団体への調査から、障害者の受入れの先進事例として、岡崎竜城スイミングクラブを調査の対象とした。

### 1. 3 調査方法

ヒアリング調査

### 1. 4 調査内容

障害者の受入れ状況、障害者のプログラム参加状況、受入れに関するこれまでの取組、スポーツ基本法で障害者のスポーツについて明記されてからの対応など

### 1. 5 調査期間

2013年10月～2013年12月

## 2. 調査結果

### 日本スイミングクラブ協会加盟クラブの2割弱で、障害者向けのプログラムを提供

#### 1. 民間スポーツクラブにおける障害者の受入れ状況

フィットネスクラブ、スイミングクラブ、テニスクラブそれぞれの統轄団体は、個々の民間スポーツクラブにおける障害者の受入れ状況に関して把握していない。軽い障害であれば、入会時に本人が申告しなければクラブ側は確認できないため、障害者の参加について正確な実態を把握するのは困難である。スポーツ基本法の施行を受けて、今後、各地の民間スポーツクラブで障害者の受入れが進めば、障害者の参加に関する事例情報やノウハウが統轄団体に集まることが期待できる。

なお、公益社団法人日本テニス事業協会では、2012年から、「有明の森スポーツフェスタ」において、健常者と障害者が一緒に参加できるプログラムを展開している。テニスをはじめ、様々なスポーツを体験できるイベントの中で、「プロ選手によるテニス教室」「ソフトテニス体験教室」に加えて、「車いすテニス体験教室」「知的障がい者テニス教室」を開催している。民間テニスクラブにおける障害者の受入れの事例としては、健常者と障害者がダブルスを組むクラブ内のテニス大会を20年以上続けているクラブがある。中には、指導者と個人契約を結んで、テニスのレッスンを受けている障害者もいる。

#### 2. 日本スイミングクラブ協会の取組

一般社団法人日本スイミングクラブ協会では、加盟クラブが提供するプログラムを定期的集計している。2013年12月現在、1,060の加盟クラブのうち、およそ200クラブで障害者を対象にしたプログラムが実施されている(図表6-1)。障害者向けのプログラムがなくても、軽度の知的障害者を中心に、指導のないフリーコースなどで受け入れているクラブもあり、実際には更に多くのスイミングクラブで障害者が活動していると見込まれる。

図表6-1 障害者向けプログラムを開催している日本スイミングクラブ協会登録クラブ数

(N=1,060)

対応カテゴリ	クラブ数	割合
障害者(身体・知的の区別なし)	108	10.2%
知的障害者	80	7.5%
身体障害者	6	0.6%
合計	194	18.3%

協会では、2010年より知的障害者水泳研修会を全国各地で開催し、指導者の育成や受入れクラブの増加に努めるほか、2011年度からは「JSCA全国知的障害者水泳競技大会」を開催するなど、障害者水泳の普及活動に積極的に取り組んでいる。

## 岡崎竜城スイミングクラブ

障害者水泳に30年以上取り組んでいる老舗クラブ

### 1. 障害者の参加経緯

1973年の設立当初から、理事長自らが医師と相談しながら、自閉症の子供を約20人指導していた。翌年、この様子が掲載された新聞記事を読んだ重複障害児(視覚・知的障害)の保護者が訪ねて来たのをきっかけに、視覚障害児や知的障害児への指導も開始した。1978年より、プログラムの一環として、障害者水泳教室を開講し、本格的に障害児・者の受入れを始めた。健康づくりや社会参加を目指した水泳教室を行い、大会にも積極的に参加している。

### 2. 障害者の参加状況

会員数は約1,500人で、そのうち障害児・者は約250人である。障害者の約8割が知的障害、約2割が肢体不自由である。クラブは3校(本校・南校・碧南校)あり、本校と碧南校で障害者を対象にしたリハビリ教室を開講している。障害種別に関係なく、「障害者」という大きな枠の中で、発達障害、知的障害、肢体不自由など一緒に指導を行っている。車椅子利用者などもいるため、指導者の対応は多岐にわたるが、障害者教室を開講した1978年以降、障害種別や障害の程度に関係なく受入れる方針を続けているため、他のスイミングクラブでは泳ぐことがかなわなかった重度障害児も参加している。

障害児の入会後一定期間は、指導者が子供の状態を把握できていないため、安全確保の観点から、子供の特性に詳しい保護者と一緒にプールに入ってもらおうようにしている。最近では、一人での参加を希望する子供については、卒業後の社会性を育てる意味でも、保護者の送迎なしでの参加を認めている。



### ◆主なプログラム

本校では、月曜日の19:00~20:00にリハビリコースを開講している。以前は、日中の時間帯のコースであったが、卒業後の勤労者も通えるようにと、夜の時間帯のコースに変更した。この変更により、社会人の参加に加えて、保護者の同伴が必要な子供たちも保護者の日中勤務終了後に一緒に参加できるようになった。

泳力別に4コースに分け、各コースを一人のコーチが担当する。リハビリコース用に4レーン、指導者や付添いが不要な障害者用に残りの2レーンを開放している(図表6-2)。

「泳げない方のコース」では、顔付けできない子供もいるので、背泳から始め、徐々に、顔付け、バタ足と指導していく。重度障害児を含めて、3~5人が保護者同伴で参加している。コーチが一人の子供に付きっきりになるケースもあるが、指導補助として多くの保護者が一緒に教室に参加し

ているため、コーチだけでは目の届かない部分をサポートしてもらえる。

「25m泳げる方のコース」では、自由形と背泳で50m泳げるようにと、途中で足を着いても気にせず、往復することを意識して指導している。パニック障害児を含めて、15～20人が参加しており、心配な保護者には同伴してもらおうが、一人での参加を基本としている。

「4種目の練習をするコース」では、背泳、平泳ぎ、バタフライ、自由形の4種目を完全に泳ぐことを目標に、飛び込みや繰り返し泳ぐ練習をしている。内容は健常者と変わらず、競技志向の子供が約10人参加している。大会出場に向けて、タイムを読めるようにと、スタートのタイミングなど工夫しながら指導している。



「大会に出るコース」は、全国大会やパラリンピックを目標にする子供など7人が参加している。

図表 6-2 岡崎竜城スイミングクラブのリハビリコース(月曜日)のプログラム

コース名	内容
泳げない方のコース	25m泳げない等の初歩の段階の子供が、顔つけや浮き、バタ足から習得し、自由形と背泳で25m泳げることが目標
25m泳げる方のコース	自由形と背泳で50m泳げて、平泳ぎのキックやバサロキックができるようになることが目標
4種目の練習をするコース	競技に出たい人や出ている人が100mを泳げるようにすることが目標。飛び込み練習や25mを何本も泳ぐ等、内容は健常者の選手の練習に近い
大会に出るコース	世界記録や日本記録保持者もいるため、世界大会や日本選手権等への出場レベルに対応することが目標

月曜日のリハビリコース以外にも、火、木曜日(15:00～16:00)に「泳げない方から4種目の泳法の練習」、土曜日(12:00～13:00)に「中学生以下で25m以上泳げるようにするコース」、土曜日(13:00～14:00)に「中学生以下が付き添いの方と一緒に泳げるようにするコース」など多様なコースを様々な時間帯で開講している。

### 3. 指導者の状況

日本体育協会公認資格をクラブの指導者全員が保有しており、そのうち一人が日本障害者スポーツ協会公認資格「スポーツコーチ」、4人が「初級障害者スポーツ指導員」を保有している。メイン担当者は4人で、約15人のスタッフがサポートできる体制を敷いている。



### 4. 障害者施設への支援

岡崎市委託事業として、毎週火曜日 12:30～14:00 の2コマの時間帯で、岡崎市福祉事業団が管理運営する「福祉の村」の施設から子供たちを受け入れている(図表 6-3)。

図表 6-3 岡崎竜城スイミングクラブに通う「福祉の村」参加施設

施設名	参加人数(人)
『めばえの家』(児童発達支援事業)	50～60
『若葉学園』(児童発達支援センター)	30～40
『そだちの家』(生活介護事業)	約60
『のぞみの家』(生活介護事業) (就労継続支援事業B型)	約60

### 5. その他

水泳指導には、「数を数える」「順番を待つ」といった要素を取り入れ、社会で健常者と一緒に生活できる訓練も行っている。クラブの文化として障害者と一緒に泳ぐことが根付いているため、健常者のクラスとの入替時においても、トラブルや苦情などはほとんど発生せず、子供たちは抵抗なく水泳教室に参加している。

#### 岡崎竜城スイミングクラブ

- 所在地：愛知県岡崎市日名南町 19 番地 14 (本校)
- 設立年：1973 年
- 会員数：約 1,500 人 (そのうち約 250 人が障害者)
- スタッフ数：約 80 人 (アシスタント含む)